

# 職業的自立へのステップに向けた手ごかりに



総括コーディネーター兼運営責任者  
(NPO法人青少年自立援助センター)  
長谷川 晃氏

サポートステーションは、若年無業者等の自立支援を目的としています。

## 「自分探し」のヒントとして

サポートステーションの来所者は、それぞれに課題をもっていますが、あだちサポートステーションでは、就職活動の準備をし、自立へ向けて踏み出すことを支援するために、GATBを活用しています。



## ●あだち若者サポートステーション

東京都足立区千住1-4-1 東京芸術センター 8F  
全国116カ所にある地域若者サポートステーション（愛称「サポステ」）は、ニート等の若者の職業的自立を支援するため、個別的・継続的な相談、各種セミナー、職業体験など、総合的な支援を行う。足立区では、厚生労働省と足立区の委託を受け、NPO法人青少年自立援助センターが運営。利用対象者は、義務教育終了後の15歳から30代までの若者。

来所する若者の特徴として、「選ぶ」とか「決める」といったことがなかなかできない子が多い。自己理解ができていなくて、自分探しの主体にしなければならぬ子が多いためです。そういう時に、このGATBを使うと本人の強み・弱みがわかるので、自分の向いていそうな職種を絞り込ませるとか、逆に自分が行きたい職種があるのであれば自分に何が足り

ないかというのを見つけさせる。仕事探し・自分探しのヒントとして活用させていただいています。GATBのセミナーは人気がありますし、自分のことを理解するきっかけが早めできれば行動を促すことにもなるので、毎月やっています。

来所される方は、ハローワークや就労支援機関、自治体関連施設等でチラシを見て、あるいは最近ではホームページを見て来たという方が多くなっています。

あだちの特徴としては、カウンセリングだけでなくセミナーを多くやっていることですね。集団行動の中で自分に何ができるかを見つけさせるという面を一つのテーマとして、自分のことを知るテスト系、コミュニケーション系、就活・アルバイト（アルバイトを始めための活動）、ボランティア、定着支援などのメニューの中で、それぞれ階段式にレベルを変えてセミナーを設定しています。利用ニーズに合わせて変動もします。

本当はもっと早く、社会に出る前の中学・高校の段階で気づきがあるといいでしょうね。早い段階で自分の方向性をつかんだったり、自分の足りないものを吸収したりしてきたら、今のこういった社会環境でも何とかがんばっていきけるのではないかと。時代的にも以前だったら社会全体でもう少し受け入れてくれて育ててくれた環境があったと思うんですね。今は企業側が受け入れられない状況になっている以上、そこに早く適応できるように学生生活である程度身につけたり、考えを深めたりしたら、だいぶ違うと思うんですけども。

## 「職業レディネス・テスト」とセットで

GATBは、スタッフにも全員受けさせています。自分の特徴を理解したうえで相手に接することにもなる。プログラムとしては、1日目（2時間）は検査の実施と「結果の見方・生かし方」（ワークシート）のWORK2まで。2日目（2時間）はその結果を元にWORK3を作っていきます。簡単

な解釈の仕方の説明をして、あとは家に持って帰ってやってもらうか、キャリアカウンセラーに個別面談でカウンセリングを受けるか、ですね。職業レディネス・テストとセットにしてパーソナリティとともに解釈してもらえます。この2つの組み合わせは使いやすいと思っています。



ただ、これを受けることで答えが出るものだと思います。結構多いので、勘違いしないように注意しています。

アンケートを見ると、「自分の考えていたとおりだった」という人もいますが、「真逆だった」と答える人もいますが、受けてみて「ダメだった」という人は少ないですね。「今回の検査結果で得たものを今後の就活に活用していきたい」というように、やっぱり自分の進みたい道や考え方の参考にしたという声が多いです。